

「アトピー手記」 浮田 敦士 27歳

2013年8月11日

私は現在27歳ですが、アトピーと診断されたのは17～18歳の高校生のときでした。最初に通っていた皮膚科では「アトピーは体質の問題だからステロイドを使いながら様子をみていくしかない」と言われ、自分も「仕方ないか」と思っていました。

その後数年経ち、私は『柔道整復師』という整骨の免許を取るために医療系の専門学校に通いだしました。

そこで解剖学や生理学など人体の勉強を学びだし、ステロイド薬に対する矛盾を感じ始めた私は皮膚科の先生に「ステロイドを長期に渡って使用するのをおかしいのでは？」

「免疫を抑制して重大な副作用があるのでは？」と質問しました。

するとその先生からは「そんなこと言ってもアトピーの症状を抑えるためには仕方ない」「他に治療法はない」という答えが帰ってき、私は納得いかないままも(専門の先生が言うならそうなのかな…)と思いましたが、時間が経つにつれ自分の中では疑問がどんどん大きくなっていきました。

その後数年経ち、学校も卒業して整形外科で働き始めた私は24歳になっていました。ある日、東洋医学の本を購入するために本屋に行った私はたまたま免疫学に関する本に目が留まり(本のタイトルは忘れましたが…)、内容を読んで愕然としました。

なぜなら書いていた内容が、ステロイドの副作用に関することや自己免疫疾患の根治の治療法など、通っていた皮膚科の先生が言っていたこととは全くかけ離れていた内容だったからです。

「やっぱりステロイドを使用するのは間違えていた!!」と確信した私はその日からステロイドの使用を辞めました。

すると、(この手記を読んでいる方はすでに経験されているかもしれませんが…)恐ろしいほどの副作用が出始めたのです。

耳や首の後ろからは黄色い浸出液が噴き出し、臉は腫れて四谷怪談に出てくるお岩さんのような顔になり、家族や彼女、職場の皆に心配をかけました。

でも、脱ステロイドを決心した私は泣きそうになりながらも頑張っていました。

するとある日、彼女(現在、奥さん)がインターネットで調べた松本医院のことを教えてくれ、私は受診することを決め、高槻市まで行きました。

初めて松本先生に会い衝撃を受けました。「何でステロイドなんか使ったんや！！ アホな医者のおかげで免疫細胞がむちゃくちゃにされとる！！」と怒鳴られ、ビックリしました。

そして30分以上もかけてアレルゲンやI g E抗体、免疫細胞などアレルギーに関するメカニズムを丁寧に説明してくれ、そして最後に「必ず治る！あんたの体自身が治してくれるんや！！」と力強く言われ、ほんとに嬉しかったのを覚えています。

治療途中、色々大変でした。ステロイドによって免疫抑制されていた間に増殖しまくったヘルペスウイルスとの戦いはホントに辛かった。

先にも書きましたが、顔から黄色いリンパ液が噴き出したり、口周りや鼻周りが裂けて話したり食べたりするのも困難になったり(これはホントに辛かった)、左腕の肘関節が裂けて曲げ伸ばしが出来なくなったりした(これもホントに辛かった)。

松本医院で漢方治療を始めて2年半経った現在、血液検査でようやくI g E抗体の数値も下がりはじめ、徐々にですが良くなってきているのを実感しています。

現在でも頸周りや肘関節の辺りが痒くなったり赤くなったりしますが、数値が下がってきているのでアトピー症状も少しずつ消えいってくれると確信しています。

最後になりますが、今この手記を読んでいる方に言いたいことは「脱ステロイドのリバウンド症状はとても辛いですが負けずにアトピーは必ず治る！」のです。

アトピー患者で苦しんでいる方はたくさんいると思います。

一緒にアトピーを治しましょう！！

稚拙な文章になってしまいましたが、読んで頂きありがとうございました。